

# 鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第59号

## 目次

- 第25回ミニ展示「一本松遺跡展」  
を開催……………1～2
- 郷土資料館この一品⑰……………2
- 令和4年度の事業予定……………3
- 史料整理の現場から⑧……………4

## 第25回ミニ展示を開催 『一本松遺跡展』

～縄文時代と古墳時代のライフスタイル～

第25回ミニ展示を7月16日(土)から開催します。今回のテーマは「一本松遺跡」です。この遺跡は中沢地区にあり、縄文時代後期および古墳時代前期の遺構、遺物が確認されています。平成28年度の第4次発掘調査時には現地説明会を実施したので、実際に現場をご覧になった方もいると思います。今回の展示では、この時に発掘した土器など実物の出土遺物や遺構の写真などを展示します。この機会に、一本松遺跡がどんな遺跡なのかをぜひご覧ください。

### 発掘した実物遺物を展示

一本松遺跡は、市内中沢地区に所在します。現状は山林や梨畑で、昭和55年の第1次調査をはじめとして平成28年度までに4回の調査を実施しています。

その中でも、平成7年度の第2次調査では、縄文時代後期の住居跡、貝ブロックのほか、古墳時代前期の住居跡や多数の遺物が出土しており、現地見学会とともに、平成9年度には同遺



一本松遺跡全景(手前の林に囲まれている部分)



柄鏡形の住居跡

跡の企画展を実施しています。

平成28年度の第4次調査では、縄文時代の住居跡が12軒、土坑(堅掘りの穴)51基、古墳時代の住居跡が6軒のほか、各時代の土器

(2ページへ続く)

(1ページからの続き)

などの出土遺物もたくさん出土しています。遺構で特筆するものは、3軒見つかった縄文時代の柄鏡形の住居跡です。これは円形に柄のよう



深鉢形土器(縄文時代後期)

に張り出し部分がある住居跡で、この部分は出入口と考えられています。この柄の部分まで良好に残って発掘される例は少ないようです。

また、完形土器や、割れたものを

接合してほぼ元の形に復元できた土器もあります。特殊な遺物としては、頭部がありませんが筒形の土偶が出土しています。

調査成果から、他地域との交流がうかがえる資料も見つかっています。

展示では発見された実物資料を中心に、写真や解説パネルなどで、この遺跡への理解を深めていただきます。

**期間** 7月16日(土)～9月25日(日)。ただし、毎週月曜日及び祝日は休館します(月曜日が祝日の場合は翌火曜日も休館)。

**開館時間** 午前9時～午後5時(入館は午後4時45分までにお願いします)

**会場** 郷土資料館2階展示室

## 郷土資料館この一品⑰

### 野馬土手と野馬の模型

今回はちょっと変わった資料を紹介します。鎌ヶ谷市には江戸時代、幕府の馬生産のために設置された牧場の一部があり、これに関連した史跡「下総小金中野牧跡」が平成19年に国史跡に指定されました。これは主に「捕込(とっこめ)」と呼ばれる野馬を選別した施設と野馬が牧外に逃亡しないように設けられた野馬土手からなります。

捕込や野馬土手の一部は今も市内に残っていますが、郷土資料館の中でもその大きさを実感していただくために、かつて稲荷前三叉路(東初富付近)に所在した野馬土手の模型を展示しています。これは図面を基に再現したもので、高さは約2.6mあります。年表の後ろにひっそりと佇んでいるため気付きにくいですが、その前に立ってみると、野馬土手の高さや幅の大きさを実感していただけると思います。

また、もう一つは野馬の実物大模型です。かつて牧場で放牧されていた馬は、現在みなさんがイメージするものよりも小さな馬でし



野馬土手の断面と野馬の実物大模型

た。今、多く目にされるのはサラブレッドという明治以降にたくさん輸入された西洋馬ですが、江戸時代にいた馬は、在来馬と呼ばれるものに近かったようです。貝柄山公園の野馬の親子像と同じく当時いた馬の大きさを表しています。

この土手と野馬の模型は平成19年の企画展示に使ったものです。馬は長らく白いシルエットでしたが、令和2年に開催した「牧ものがたり」で再展示するにあたって、表面に茶色のフェルトをまとい、少し馬っぽさを出してみました。こちらもそばに立ってみて、当時の馬の大きさを実感してみてください。時代劇で描かれる時代の本当の馬の姿は、少し親しみの持てるかわいいものだったのです。

# 郷土資料館 令和4年度の事業予定

新型コロナウイルスの蔓延状況によっては中止や変更になる場合もあります。詳細は、その都度「広報かまがや」などでお知らせします。

## ◇ 展 示

### ①第25回ミニ展示「一本松遺跡展～縄文時代と古墳時代のライフスタイル～」

中沢地区に所在し、平成28年度(2017)に本調査を実施した成果を実物の出土資料と写真パネルで一堂に展示します。

期間 7月16日(土)～9月25日(日)

### ②新資料展示「新発見! 鎌ヶ谷のたからもの」

令和3年度の調査によって確認・発見した埋蔵文化財や、歴史・民俗資料を紹介します。

期間 10月22日(土)～1月29日(日)

### ③第26回ミニ展示(仮)「鎌ヶ谷の商い」

市内の旧家に残されていた資料や、調査により新たに分かったことを基に、市内にかつてあった様々な商いについて展示をします。

期間 3月～5月

## ◇ 教室・講座

### ①郷土資料館セミナー

「房総の民俗」をメインテーマとして、大正～昭和の生活改善、行商、おびしゃ、農具をはじめとした民具、東葛・印旛大師講など各分野の専門家による講演を5回シリーズで。

期間 12月～令和5年1月

### ②自然観察会

自然がよく残っている市域の地区を訪ね、季節の植物や野鳥などに親しみながら楽しく学びます。なお、ここ数年中止となっていることから、時期を変更して実施する予定です。

時期 令和4年秋頃(予定)

### ③歴史講演会I「<sup>ひすま</sup>襖の下張りに隠されていた地域の歴史」

市内の旧家などにあった<sup>ほご</sup>襖や額などの下張りに利用されていた反古紙には、思わぬ歴史資

料が隠れています。この講座では、それらの下張り文書の取り出し事例と、その資料に記されていた歴史を探ります。

時期 調整中(令和4年3月に予定していて、中止となった講演会です)

### ④歴史講演会II(テーマ調整中)

市内で調査・発見された歴史的な事象に焦点をあてて、その道の研究者をお招きし、歴史をひも解いていきます。テーマは決まり次第お知らせいたします。

時期 調整中

## ◇ 夏休み子ども企画

### ①縄文人の生活ウォッチング

大昔、この地で生きた縄文人はどのような生活をしていたのでしょうか?この講座では、ミニ展示「一本松遺跡展」の関連イベントとして、火おこしを体験することができるほか、本物の土器にふれることもできます。

内容 ①縄文土器にふれる ②火おこし体験 ③縄文クイズに挑戦

対象 小学校3～6年生(保護者の付き添い可。対象学年以外は応相談)

日時 7月30日(土) 午前10時～正午

場所 市立図書館3階集会室

定員 30名(7/1から受付・先着申込順)

保険代 50円(当日持参)

服装 動きやすく、汚れてもよい服装で

申し込み 郷土資料館 ☎ 445-1030

### ②めざせ! 考古学博士

市内の遺跡やそこから発掘された遺物などについて、学芸員が分かりやすく解説します。また、本物の縄文土器にふれることもできます。君も鎌ヶ谷の考古学博士をめざそう!

開催日等 調整中

## 【史料整理の現場から⑧】

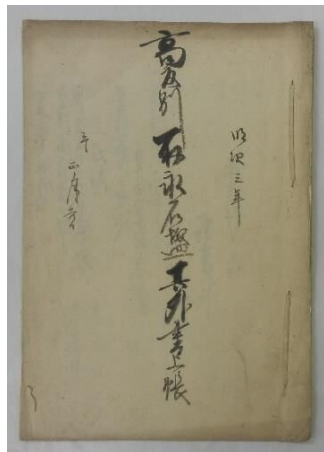
### 初富の古い地名について

郷土資料館では、調査により新たに発見した、あるいは寄贈いただいた歴史資料の整理と並行して、すでに整理をしたものについても、現物の所在確認や史料目録（リスト）の見直しなどの作業を行っています。この作業の過程で、改めて史料を見返すことにより、新たな史実の発見につながることもあります。

写真は、たかたんべつとりえいこくもりそのほかかきあげちよう「高反別取永石盛其外書上帳」という表紙の1冊（写真①）の中に、表題とは別の「質地証文之事」という史料（写真②）が記されていたものです。②についての情報は、これまで把握していませんでした。

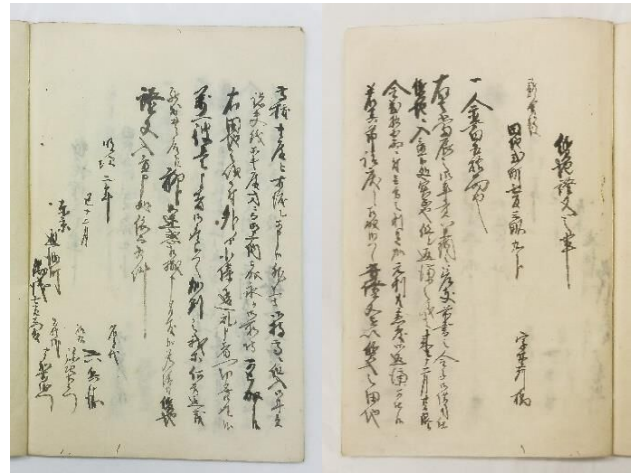
「高反別取永石盛其外書上帳」は、中沢地区の村役人家に伝わっていた史料です。明治3年（1870）

1月、前年の中沢村のむらだか村高（米の収穫高に換算した土地の生産量）・たんべつ反別（面積）・とりえい取永（金納する租税）・こくもり石盛（等級）などを取



写真① 史料表紙

り調べ、管轄する葛飾県に提出した書面の写です。これに続く「質地証文之事」の部分には、明治2年12月、中沢村が年貢（租税）の上納にさしつかえ、「あざきかりほし字木苧橋」に所在する「新開発田地」2町7反3畝9歩（約27,000㎡）を抵当にして、とおりあぶらちよう東京通油町の湯浅七左衛門から、金150両を借用した、という内容が記されています。湯浅は、明治政府によるこがねまき小金牧開墾事業を請け負った、開墾会社（初富会社）の社員の



写真② 質地証文(明治2年12月)

1人です。ただ、証文の原本ではないため、実際に取りかわされたものかどうかなど、詳細は不明です。

「木刈橋」は、中沢地区に近接する初富字四ツ辻つじ周辺の通称地名で、北初富7には木刈橋公民館があります。初富への入植開始間もない当時、旧牧地（なかのまき小金中野牧）内を中沢村が開発していた田地があったことが分かります。

慶応2年（1866）年、江戸幕府の「開墾奨励令」によって、牧地も開墾の対象とされました。翌3年に、市域では中沢村のほか、佐津間村・栗野村が新開地の年貢を支払っていることが、ほかの史料から確認されています。

牧に隣接する野付村では、牧内の見回り場や、のせん草銭場・野銭場といった採草地など、日常的に村人が立ち入ったり利用したりしていた土地を開発の対象としました。それらの場所に付けられていた古い地名のいくつかを、江戸時代の史料からも確認することができますが、今はもう残っていないものもあります。住居表示によって地図上から消えていってしまう小字名や、地区に残る通称など、小さな地名の一つひとつにも地域の歴史を知る手がかりがあり、その記録や記憶を大切にしていきたいと思います。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第59号 令和4年6月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：[kyodo@city.kamagaya.chiba.jp](mailto:kyodo@city.kamagaya.chiba.jp)

ウェブサイト：[http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo\\_2/index.html](http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html)